
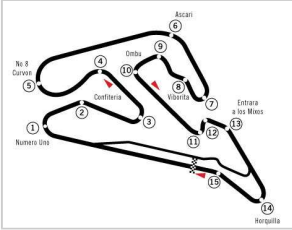


## アルゼンチン TOP RACE V6 SERIES

update 2008/09/13

### コース情報

GP名:	 TOP RACE V6
開催日:	26-28 September, 2008
サーキット名:	Oscar Alfredo Galves
サーキット詳細:	 <p>1997年よりアルゼンチンでビッグイベントとして行われている「TOP RACE V6 SERIES」。今回のレースでは吉本の他にも、97年F1ワールドチャンピオンの「ビルヌーブ」の参戦が発表される等、アルゼンチン国内では大変な盛り上がりを見せている。吉本の同カテゴリー参戦は当然初めてとなるが、フォーミュラカー以外のレースにおいても今年のSUPER GTポッカ1000Kmでは7番手からオーバーテイクを繰り返しトップに躍り出る活躍も見ており、同じく「ハコ車」でのレースとなる今回も、その実力を発揮することが期待されている。</p> <p><a href="#">TOP RACE V6 SERIES OFFICIAL SITE</a></p>

### 決勝第1レース

28 September, 2008

#### 吉本大樹、決勝はエンジントラブルで悔しいリタイア

ライバル勢の手洗い洗礼、そしてマシンフィーリングの悪化により思ったようなアタックを全くすることが出来なかった前日までの吉本大樹。それでも決勝に向けてはあくまで前向きなコメントを残しレースでの追い上げを期し迎えた日曜日。

通常のレースウィークでは1レース目のトップ8のみをリバースグリッドにして行う2ヒート制を採用しているTOP RACE SERIES。しかし今回は特別イベントということもあり、予選順位の奇数、偶数で分けられた2グループでそれぞれ10周のスプリントレースを行い、通常よりも距離の長いメインレースのスターティンググリッドはその各順位で左右一列ずつに配置される方式が採用された。迎えた最初のスプリントレース。このヒートには前日のオーバーステアを消す方向のセッティングで挑んだ吉本大樹。レースは各車コースインの直前に突然雨が降り始め、グリッド上で全車ウェットタイヤを装着。通常であればローリングスタートが切られるTOP RACE SERIESだが、ウェットコンディションということもありレースはセーフティーカー先導からのスタートへと変更され、スタート前から波乱の様相を呈する。そして迎えた注目のスタート。

激しい1コーナーの奪い合いとその混乱を潜り抜けポジションを上げて行きたい吉本であったが、前日から明らかにストレートでのスピードが伸びていないマシンはスタート直後のストレート区間で各車に置いていかれてしまう。さらにレース前のセット変更で極端な変更を施されたためか、今度はコーナー区間で極度のアンダーステアに悩まされることに。それでもストレートで他車に離されていく分をコーナリングでカバーしていく吉本であったが、この高速コースではそれも虚しく簡単にストレートで抜かされてしまう。その後レース終盤に向け雨も上がりライン上が乾いていく展開のなか、吉本は接戦の中で他車に押し出されたりマシンの挙動に苦しんだ末コントロールを失う等で2度のスピンを喫したが、このヒートはメインレースのグリッドを決めるレースということもあり、明らかにスピードの出ないマシンを何とかチェッカーまで導き21番手でこのヒートを終了した。

晴天であれば10万人を超える観客動員が予想されていたこの日のレース。午前中から雨にたたられた為その予想は下回ったものの、それでも5万人をゆうに超える観客が詰め掛けたTOP RACE V6ブエノスアイレスラウンド。ドライバーはレース前にその大観衆のもとドライバーズパレードを行い、その後そのままシートに収まりコースイン。「セットを頼むたびに悪い方向へと進んでしまうので、午前中のスプリントレース後に金曜日のセットに戻してもらった」という吉本も、後方からながら追い上げを狙いスタートの時を迎える。そして迎えたファイナルのメインレース。スタートは通常のローリングスタートが切られ、75KgというTOP RACEのマシンがこれまでに経験したことのない量のガソリンを積んだ状態でレースが始まった。

このスタートでは1台を交わし1コーナーへと入った吉本大樹。しかし「マシンはレース1に比べたら格段に良くなった」とは言うもののストレートでの伸びは変わらず、このレースもやはりストレート区間でポジションを落とす展開となってしまった。それでも吉本は各コーナーの進入で限界ぎりぎりのブレーキングを披露。時には他車との接触もありながら、スタートからの2周は「ストレートで抜かれたマシンをブレーキングで抜き返す」レースが続く。ところがここからエンジンのパワーが更に下がり始め、通常であればストレートエンドで7000rpm回るはずのエンジンは6300rpm程しか回らない状態となっていく。ストレートでは全く勝負にならないマシンを巧みに操り混戦を戦っていた吉本であったが、トルクも無くなり完全にレーシングスピードを維持できなくなってしまったエンジンではなす術も無く、

最後はレースを20周以上残した6周目にリタイアを決断。レースはその後もまたしても雨が降り始め大混戦となったため、追い上げを狙っていた吉本にとっては非常に悔しいトラブルによるリタイアとなった。



TOP RACE V6 / Serie 1~Final Sun.  
Text & Photo : [www.hiroki-yoshimoto.com](http://www.hiroki-yoshimoto.com)

#### 吉本大樹 のコメント

ストレートが遅いのは知っていたんですが、レース1までは正直あそこまでストレートのスピードに差があるとは思いませんでした。木曜日に交換したエンジンですが、データロガーも無いので重ねられないのが各車に差が出てしまう原因ですね。それに加えてレース1はセットをとんでもなく外してしまっていたので、スピンもしてしまったし、レースになりませんでした。

(Finlaまでは)インターバルが2時間程あったのでなんとかエンジンを交換してもらえればと思ったんですが大丈夫との判断だったので、触れば触る程悪くなっていくセットだけを金曜日の状態に戻して後方から無理くり抜いて目だつてやろうと思っていました。でもストレートが本当に全然伸びなくて、抜くどころか着いていく事も出来ませんでした。ストレートで抜かれたマシンをブレーキングで抜き返したり悪あがきはしましたけど、スピードに差がありすぎてどうしようもありませんでした。エンジンはトルクが無くなり、回転が上がりきらない常態でブローしそうという感じでもありませんでしたが、無線で相談して止めました。暴れたかったんですけどね…残念です。



#### 決勝第1レース - リザルト

- Serie 1 21th
- Final DNF

#### 公式予選

27 September, 2008

## 吉本大樹、マシンセットに苦しみタイムが伸びず

### 【Free Practice 3】

前日の予選1回目ではまともなアタックを1度も行うことが出来なかった吉本大樹。一夜明けた土曜日は、このレースウィーク3回目のフリープラクティス(90分)が12:30から行われ、その後15:50から昨日同様3グループに分かれての公式予選2回目(15分)が行われた。

TOP RACE では数人のエンジニアが複数の異なるチーム、ドライバーのエンジニアを受け持っており、個々のドライバーが直接エンジニアと話をすることが出来ない。またデータロガーの使用も禁止されているため、セッティングは個々のドライバーからエンジニアのアシスタントを介しエンジニアにコメントが伝えられ、そのコメントから各エンジニアの経験と勤によって進められる。当然細かいニュアンス等は伝わりづらい。その中で金曜日からマシンのセッティングを大きく変更した吉本はセッション開始から17分が経過したところでコースイン、まずは計測3周目に1'41"768をマークする。しかし、「マシンの状態は前日までとは真逆で極度のオーバーステア。特にタイムにつながる1,2コーナー、3,4コーナーの区間でもかなりのオーバーが出てしまう」という吉本は、90分間のセッションで幾度もアウトインを繰り返しセッティングを進めていく。しかし結局最後までこの症状は解消されず、セッション終盤でわずかにタイムを伸ばし1'41"538を記録したものの、最終的にこのセッションを25番手で終了することとなった。

### 【Qualify 2】

「FP3(フリープラクティス3回目)の状態ではとてもじゃないけどタイムは上がらない」と、FP3からさらに大きくセッティングを変更し挑んだ公式予選2回目。

前日はグループの一番後ろにつけてコースインしたのに対しこの日は前方からコースイン、タイムアタックを開始した吉本大樹。するとまずは計測1周目で前日の予選タイムを上回る1'41"104をマーク、クリアラップであれば確実にタイムの上がるはずの計測2周目へと入っていく。ところが吉本は6コーナーに差し掛かったところでコース上に撒き散らされた大量の芝生や砂に乗ってスピン。さらにすぐ後ろを走行していたJビルヌーブも同様にここでスピンを喫し、先に止まっていた吉本と接触ギリギリのところまでストップ。両者は何とか接触こそ免れたものの、吉本はこのスピンによりタイヤにダメージを負ってしまう。結局セッションはこれらコース上のゴミを撤去するために赤旗が出され一時中断となる。

その後セッションが再開されるとすぐに再アタックへと向かった吉本大樹。しかしリアタイヤのグリップが極端に低い上、タイヤにはダメージがありタイムを伸ばすことが出来ない。最後の1周もフルプッシュのアタックを試みたものの、2コーナーでスピンを喫しグラベルでストップ。結局ベストタイムは計測1周目に記録した1'41"104となり、全くアタックが出来なかった前日のQF1のタイムは更新したものの、総合では31番手で予選を終えた。



TOP RACE V6 / Free Practice 3~Qualify 2 Sat.  
Text & Photo : [www.hiroki-yoshimoto.com](http://www.hiroki-yoshimoto.com)

### 吉本大樹 のコメント

なんだか日に日にマシンバランスが悪くなっている様な気がします...。エンジニアは間接的にしか話が出来ないので意思がきちんと伝わらないんです。僕がエンジニアのアシスタントに言ったコメントがエンジニアの所に持ち帰られそれがマシンに反映される状態で、しかもそのアシスタントとの間には通訳的な存在もいますし、普通に考えて難しいですね。今日まではこれほど極端にリアのグリップが低くなることはなかったんですが、高速の3~4コーナーなんて間は少し曲がっているけどほぼ直線の間があるのに、3コーナー入り口から4コーナー出口まで何をしてもリアが流れっぱなしですからね。速いタイムが出るわけもなく...。僕に似たセットにしたチームメイトのRicardo Risattiも似た症状が出ているそうです。この状態では絶対にレースでもたないんで解決策を見つけてもらわないといけませんね。

前方からスタートしたかったのでここ2日間の流れは非常に残念ですが、めちゃくちゃになるであろうレースを後方から追い上げるのも楽しそうです。



## 公式予選 - リザルト

- Free Practice 3 25th 1'41"538
- Qualify 2 31th 1'41"104

公式練習 26 September, 2008

## TOP RACE V6 ブエノスアイレスラウンド、いよいよ開幕

### 【Free Practice 1-2】

水曜日、木曜日は特別テスト走行を行った他いくつかのTVにも出演した吉本大樹。ビックイベントに元F1ワールドチャンピオンと並ぶ「招待選手」として招かれた初の日本人ドライバーとして大きな注目を集めると同時に、ライバルとなるレギュラー参戦組からは完全に「マーク」されレースウィーク初日の金曜日を迎えることとなった。

この日行われたのは90分のフリープラクティスが2回と公式予選1回目の計3セッションで出走は44台。最初のフリープラクティスはこれまで一番涼しいコンディションのなか現地時間11:10から行われ、吉本はセッション開始から2分ほどが経過したところでコースへと向かう。コンディション的にはその涼しさからエンジンも良く回るコンディションであったものの、「木曜日に使っていたユーズドタイヤを何か捨ててしまっていたのでNEWタイヤで走り出したのですが、ディスクの焼き入れをしなければいけなかったのでタイヤの「おいしい」ところは使えなかった。」という吉本大樹。それでもセッション中盤まではトップと0.7秒程の差で13~15番手につけ、セッション開始から1時間ほどが経過した時点で自己ベストとなる1'41"276をマークする。その後は3日間を通してのタイヤの制限があることから「次のセッションでのストラテジーを考えて」と、コンディションの良くなる最後の15分ほどの時間でのアタックは行わずこのセッションの走行を終了。この時点では出走44台中の13番手辺りにつけていたが、ここからNEWタイヤでのアタックを行ったマシンがタイムを伸ばし、最終的にこのセッションでの順位は24番手となった。

そして午後に入り14:00から行われたフリープラクティス2回目。気温も午前中に比べ5°Cほど上昇したコンディションのなか、吉本は変更したマシンセットの確認をメインにセッション開始から30分程が経過したところでコースイン。まずは状態の悪いタイヤでとりあえずのアタックを試みる。しかしこのアタックは走行中にドアが開いてしまうトラブルがありまともなアタックを行えず。さらにその後このセッションでは赤旗が頻発。コースインの度に赤旗が出され全くクリアラップを取ることが出来ず、さらには予定されていた赤旗延長分がカットされ20分近く走行時間が短くなったこともあり、セッション終盤に予定していたNEWタイヤでのアタックも行えず。結局このセッションはまともな計測を1周も出来ず36番手で終了。午前と午後の総合では29番手でフリープラクティスを終え、夕方の公式予選1回目を迎える事となった。

### 【Qualify 1】

過去の戦績順によりグループ1(上位)~グループ3(下位)の3つのグループに分けられての予選が行われるTOP RACE V6 SERIES。予選セッションは金曜日に1回、土曜日に1回の計2回が行われ、各セッションの走行時間はわずかに15分。短い時間の中でいかにクリアラップを取り上位につけるかが鍵となる。招待選手の吉本とJビルヌーブはチャンピオンシップを争う上位のマシンと同じグループ1での出走となった。そしてフリープラクティス2回目からは気温も徐々に下がりつつある17:35、いよいよグループ1の公式予選1回目が始まると、吉本はまずこのシリーズで初めての予選の進め方を一番後ろから見る事に。そして計測2周目に入りアタックを開始。

ところがいざアタックに入った吉本の前にすでにアタックを終えた他のマシンが現れる。するとこのマシンは半車身をダートに落とし砂や芝生を大量に出していく。その後も「日本やヨーロッパじゃあり得ない程の邪魔の仕方だった」と、まともなアタックを全くすることが出来ないまま総合35番手でセッションが終了。招待選手として参戦、注目度も高くレギュラー参戦組から「マーク」される存在となった吉本は、アルゼンチン流の手洗い洗礼を受ける形で公式予選1回目を終了した。



## 吉本大樹 のコメント

初めて他のマシンと走り出し、ストレートがかなり遅い事が分かりました。直線がかなり長いコースなのでそうとう不利ですね。こればかりはドライバーにはどうしようもできませんから。

その辺りを他でカバーできる様に色々セットも煮詰めていったんですが、タイヤのセット数に余裕が無かったり、タイミングが悪かったりしてフリー走行ではきちんとしたラップを刻めなかったんですが、予選へはあまり心配はありませんでした。



けど、いざ予選が始まってみると、各車いきなり他を蹴落とす為の動きをしだすんですね。特に僕はマークされているらしく、日本やヨーロッパではありえない程の邪魔の仕方、本当に一切アタックできませんでした。普通にブロックは当たり前で、譲るふりをしていきなり加速して前に居残るかと思うと、全部のコーナーで車を半分外に落とすとすぐ後ろを走る僕にダートや芝生を撒き散らして僕のグリップを失わせたり、ちょっとやりすぎじゃないの？って思う事が多々ありましたけど、こういうスタイルなら僕もそういうスタイルに変えていけばいいですね。

明日もう一度予選があるのはありがたいです。実際本当のところ、まだ自分がどの位置にいるのか分からない位に1周をきちんと走れていませんから。明日のフリー走行で問題のあるマシンバランスの部分と、予選をいい形で仕上げたいと思います。

## 公式練習 - リザルト

- Free Practice 1 24th 1'41"276
- Free Practice 2 36th 1'42"236
- Qualify 1 35th 1'41"834